

## 「日本一小さなネズミ、カヤネズミの生態と保全」

畠 佐代子 先生 滋賀県立大学（環境科学部）非常勤講師・客員研究員

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業の一環として、滋賀県立大学の畠佐代子先生を迎え高大連携講座を開催しました。カヤネズミの生態を研究しておられる畠先生から、「日本一小さなネズミ、カヤネズミの生態と保全」をテーマに講義いただきました。

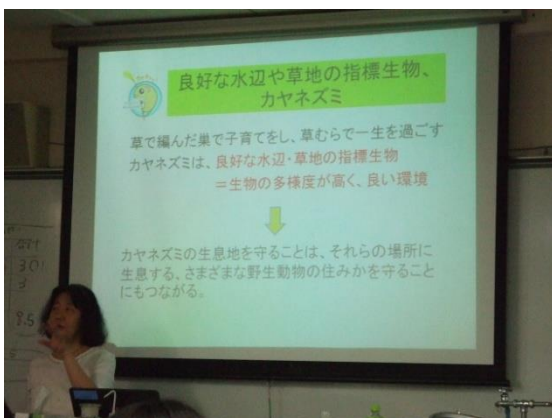
日本最小のネズミ「カヤネズミ」は、生息地の減少により全国的に絶滅が危惧され、滋賀県でも希少種に選定されています。カヤネズミは、おもにイネ科植物の葉を編んだ巣で子育てをする習性があり、田んぼのイネにも巣を作るので、農家に害獣と見なされて捕殺されることがあります。これまでに、カヤネズミがイネを大きく食害したという報告はありませんが、詳しい調査は行われてきませんでした。

畠先生の研究で、カヤネズミの巣から採取された糞のDNA分析により餌生物の判別を行ったところ、水田雑草（イヌビエやスズメノヒエ）をよく食べており、イネはほとんど食害しないことが分かりました。こうした研究成果とともに、水田に生息するカヤネズミの生態や生息環境、巣が見つかった時の対処法などについて、写真を使いわかりやすく説明いただきました。



畠先生は、大学院生時代にカヤネズミの研究を始められたそうですが、当時は本格的に調べていた研究者が少なく手探り状態だったとのこと。生息域も分からず、半年かけてようやく見つけたという生育場所も、少し見ない間にその地域が土砂置き場になってしまいうということから、「野生動物の生息地域は、簡単に無くなってしまふ」という思いを強くし、身近な野生動物の保護と環境保全について活動を進めてこられました。文系の学部に進み、国語の先生になろうと教員の免許を取って、一般企業へ就職された畠先生。ただ、自分のやりたいこと

より、出来ることを選んでしまった心残りから、もう一度大学院へ進まれ、修士課程、博士課程と進まれ、カヤネズミ研究を続けておられます。



泉北高校の生徒が非常に興味を持って聞くことができた講座となりました。この講座を通して、生物の生態と保全について考えるとともに、自分のやりたいことについて、もう一度じっくり考えてほしいと思います。